

令和2年度

事業報告書

社会福祉法人 陽風会

社会福祉法人陽風会 事業報告

1. 法人理念

当法人は、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重し、総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が個人の尊厳を保持しつつ自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援します。

また、社会福祉事業を確実、効率的かつ適正に行うため、自主的にその経営基盤の強化を図るとともに、その提供する福祉サービスの質の向上及び事業経営の透明化を図り、もって地域福祉の推進に努めることとします。

2. 重点項目

令和元年度末より世界的に感染拡大している新型コロナウイルスについて、従来より取り組んでいる、質の高い高齢者福祉サービスを継続して提供するため、協力医療機関との連携を密に行い、特に医療現場の感染症対策委員会や医師・看護師等の助言・指導を仰ぎ、情報収集に努め、感染予防・防止対策を行いました施設高齢者は基礎疾患により重症化するリスクが高いため、環境整備・必要物品の確保・職員教育・ご家族様等への協力依頼に努め、早期対応・長期的な対策を継続しています。

3. 取組と成果

(1) 事業の廃止について

前年度、新型コロナウイルス蔓延の為に休止を行った小規模多機能型居宅事業（小規模多機能型ホーム牧志）について、事業開始の見込みが立たないため廃止といたしました。その件に伴う定款及び経理規定の変更、補正予算を行っています。

(2) 長期運営資金の借入れ

新型コロナウイルスの感染拡大の為、集団感染予防及び施設閉鎖等の事態になった場合に備え、資金余力を高めておくため（独）福祉医療機構より長期運営資金の借入れを行いました。

借入額	6,000万円
償還年数	10年（据置期間 5年）
利息	当初5年3,000万円まで無利子、3,000万円超の部分は年0.2% 6年目以降0.2%

4. 評議員会

令和2年6月17日（水）	①2019年度 計算書類の承認
令和2年10月23日（金）	①定款変更
令和3年2月17日（水）	①定款変更

5. 理事会

- | | |
|---------------|---|
| 令和2年4月22日(水) | ①長期運営資金の借入れについて
②第1次補正予算 |
| 令和2年5月31日(日) | ①令和元年度 事業報告
②計算書類の承認
③評議員会の開催について |
| 令和2年10月15日(木) | ①小規模多機能型居宅介護事業(小規模多機能型ホーム牧志)の廃止について
②定款の変更について
③評議員会の開催について |
| 令和2年12月10日(木) | ①評議員の交代及び候補者の推薦について
②育児・介護休業規定の改正について |
| 令和3年2月5日(金) | ①定款の変更について
②経理規定の改正について
③給与規定の改正について
④評議員会の開催について |
| 令和3年3月30日(水) | ①補正予算について
②令和3年度事業計画について
③令和3年度予算について
④経理規定の改定について |

6. 監事監査

- | | |
|--------------|--|
| 令和2年5月27日(木) | 理事会への報告：令和2年5月31日
評議員会への報告：令和2年6月17日
法人所轄庁への報告：令和2年6月30日 |
|--------------|--|

7. 評議員選任解任委員会

- | | |
|---------------|---------------------|
| 令和2年12月18日(金) | ①評議員辞任に伴う評議員の選任について |
|---------------|---------------------|

《法人の概要》

平成18年 3月 社会福祉法人陽風会、那覇市牧志三丁目8番10号に開設

《事業の概要》

- | | |
|----------|--|
| 平成19年 4月 | 経費老人ホーム「ケアハウス常夏の島」を開設、運営する |
| 平成20年 9月 | 小規模多機能型ホーム牧志を開設、運営する |
| 平成21年 4月 | 那覇市末吉老人福祉センターの指定管理を受託、運営する
那覇市壺川老人福祉センターの指定管理を受託、運営する
那覇市辻老人憩の家の指定管理を受託、運営する |
| 平成29年 6月 | 有料老人ホーム星の館を開設、運営する |
| 平成30年 2月 | 特別養護老人ホーム前島を開設、運営する(指定は1月) |
| 平成30年 4月 | 那覇市地域包括支援センター新都心 受託 |

ケアハウス 常夏の島

利用者 定員 50名

年間稼働率 89.9% (目標稼働率 95%)

平均介護度 2.87

1. サービス利用実績

(1) 月別利用実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用人数	48	47	47	48	47	46	50	50	49	50	50	49
入院者のべ日数	161	164	151	115	130	176	123	87	57	14	18	100
のべ利用日数	1240	1304	1261	1362	1376	1224	1371	1413	1475	1506	1384	1436
稼働率 (%)	83.1	84.2	84.3	88	89.2	82.1	88.5	94.5	95.3	97.1	99.4	93
入所	5	0	1	1	1	1	4	0	1	2	2	1
退所	4	1	1	0	2	2	0	0	2	1	2	2

(2) 利用者介護度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
合計人数	49	50	46	46	47	45	48	49	50	51	52	50
要支援1												
要支援2												
要介護1	4	5	5	6	4	4	5	5	4	4	4	4
要介護2	13	12	12	12	14	13	14	14	14	14	14	14
要介護3	9	17	17	17	16	17	17	17	17	18	19	18
要介護4	5	9	10	10	10	11	11	11	11	11	11	10
要介護5	5	4	3	3	3	1	3	3	3	3	2	3
申請中												
平均介護度	2.95	2.89	2.87	2.83	2.87	2.82	2.86	2.86	2.89	2.9	2.86	2.87

2. 施設運営状況

- (1) 稼働率について、年度初めの4月から10月まで80%台と低く、また目標達成できた月が12月から3月と、前年度より減少となった。入院日数が長期間となった利用者が多く、空床期間が1か月以上となる状況が発生したことや新型コロナウイルス感染対策の為、新規案内の調整・入所に時間がかかってしまった事が原因となり、目標未達となった。
- (2) 感染症対策に力を入れ、積極的に内部研修や勉強会等を実施し、感染症予防を強化、安心安全なサービスの提供に努めた。結果、インフルエンザ等感染症の発生はゼロに抑えることができた。
- (3) 人材育成について、新型コロナウイルス感染予防の為、外部研修への参加や内部研修等も制限

されていたが、日々の業務（申し送りや勉強会）や資料を配布し、レポートを提出してもらうなど工夫し、職員の知識及び認識の向上に努めた。

- (4) 施設設備について、老朽化した設備は環境整備の観点より、優先順位をつけ順次修理・入替等の対応を行った。

3. 利用者支援状況

- (1) 新型コロナウイルス感染対策の為、外部からボランティア等の受け入れが出来なかったが、密にならない様少人数のグループに分け、レクリエーションやイベントを行った。また、リハビリとしてのレクリエーション活動を取り入れ、多職種連携し利用者の身体機能向上に取り組むことが出来た。
- (2) 個別ケアを重視し、利用者個人とのコミュニケーションを密に、また他職種の視点から利用者のニーズにあった支援を心がけ、サービス提供を行った。
- (3) 新型コロナウイルス感染予防の為、ご家族も参加していただくイベントや面会等が制限されたが、利用者やご家族からの要望や意見を取入れ、窓越しでの面会やお電話での連絡などを行い、利用者やご家族の満足度の向上に努めた。

4. 行事・レクリエーション

	行事		行事
4月	おやつ会	10月	おやつ会（ヒラヤーチー）
5月	父の日・母の日会	11月	誕生会（10・11・12月生）
6月	誕生会（4・5・6月生）	12月	クリスマス会
7月	七夕夏まつり	1月	おやつ会&ゲーム大会
8月	誕生会（7・8・9月生）	2月	誕生会（1・2・3月生）
9月	敬老会	3月	ひなまつり

5. 職員研修

実施月	研修内容等
4月	倫理・法令遵守・接遇について
5月	事故等緊急時対応について リスクマネジメント・拘束
6月	感染症について（基礎知識、ノロウイルス、尿路感染）
7月	急変時について
8月	褥瘡・ポジショニング・体位交換について
9月	権利擁護、高齢者虐待、身体拘束について
10月	認知症及び認知症ケアについて 褥瘡について
11月	プライバシー保護について
12月	感染症について（基礎知識、インフルエンザ）

1月	誤嚥について 口腔ケアについて
2月	身体機能の維持・支援方法について
3月	認知症について

実践報告

1) 重点目標

実践報告（4できた 3まあできた 2あまりできなかった 1できなかった）

No	項目	No	具体的な内容	評価の根拠	評価
1	適正な運営	①	施設設備、人員配置などの基準の確保	環境整備の観点より優先順位をつけながら順次実施できました長期的な視野で欠員状況管理を行い早期に採用活動に繋げていく。	3
		②	職業倫理や法令遵守	コロナ禍で会合等禁止の為、職業倫理・法令遵守（コンプライアンス）資料を配布し、個々に学んでもらった。	2
		③	連携体制の確保	職員の連携により入居者の情報を共有することで、入居者様の不穏、転倒事故等を減らす取り組みに繋がった。	3
		④	秘密保持及び個人情報の適切な取り扱い	コロナ禍で会合等禁止の為、資料配布にて個々で学んでもらい、主任、副主任より日々の業務にて指導を行う事で、個人情報保護について意識を高め取り組んでいる。	3
		⑤	緊急時・災害時対応	コロナ禍で会合等禁止の為、資料を配布し個々に学んでもらうなど、全職員にて緊急時マニュアルを確認する事で、意識向上を図ることができた。	3
		⑥	自己評価・点検の実施による改善	介護職員以外は契約更新時の面談で主体的に取り組む目標を設定し、概ね目標達成できている。	3

2	サービスの質の向上	設備・物品 について	老朽化に伴う劣化や不具合を確認し、安全面・衛生面の確保に努める	環境整備の観点より優先順位をつけながら順次実施した。	3
			入居者様が快適に過ごせる空間作りをする	介護現場におけるマナー・接遇にて全職員へ資料を配布。コロナ禍で会合等禁止の為、日々の業務にて細かい部分は口頭で説明・指導し、入居者に接する際のマナーの向上を促している。	2
		ケア内容 について	利用者本位のサービス提供に努める	職員本位にならないよう入居者様本人の思いを尊重し、多職種で連携を取りながら、サービス提供を行えた。	3
			入居者様の各々に合った支援方法にてサービスを提供する（個別支援）	多職種で連携し、本人の状況に合わせたケアを行う事ができている。今後も多職種にて連携強化し、サービス提供していく。	3
		レクリエーション について	季節感のある行事や個別支援でのレクリエーション活動等、入居者様がより楽しめるよう、入居者様の意見を取り入れる等して計画し、実施する	コロナ禍で密にならないように注意して小グループに分け実施を行った。入居者様がリフレッシュできる様なレクリエーション等を今後も考え実施する。	3
			楽しみとしてのレクリエーションだけでなく、身体機能の向上を視野にリハビリとしての活動も取り入れる	身体機能の維持として行っていることが多く、リハビリ意欲が向上するような活動も取り入れて行った。	3
		人材育成 について	計画的な研修にて職員の知識・能力の向上を図る。また、多くの職員が参加できるように努める	コロナ禍ではあるが、可能な限り過去の外部研修の資料等を準備し、多職種へ情報共有した。	2

			自発的に学ぶ姿勢を持ち、多職種にて連携を図れるように報告・連絡・相談を密にする	職員の認識が高まり、多くの分野において改善が著明となった。	3
			職員面談の機会を増やし、目標設定と評価を定期的実施する	職員の「業務姿勢に関する自己評価シート」を実施した。	3
			自己評価を実施し、改善に努める	上記同様	3
3	利用者満足度の向上	①	季節感を楽しめ、ご家族も参加できる企画を計画する	コロナ禍ですべて中止とした。	1
		②	利用者様やご家族様からの意見を傾聴できる機会を作る（アンケートや面談）	コロナ禍での面会の仕方など、ご家族様から様々なご意見を頂いたため、参考にし、満足度の向上に努めている。	3

2) 個別目標

No	項目	No	具体的な内容	評価の根拠	評価
1	介護	①	入居者の個人の尊厳を尊重し、傾聴の姿勢にて接遇のマナーを正し、信頼関係を築く	コロナ禍で会合等禁止の為、接遇についての資料を全職員へ配布し勉強してもらった。	2
		②	入浴 安全に安心できる環境で快適に入浴ができるように、個人のADLに合った方法で支援する	朝食後や入浴時間前に担当の職員が声掛けを行い、体調の確認や心身の状況を把握する事で、入居者個人に合った入浴サービス・身体介護・自立支援を用いた介助を行う事が出来た。	3
			排泄 不快なく気持ちよく過ごせるよう、適切な回数やおむつの当て方に気を配って対応する	多職種共に情報共有ができ、入居者様ごとに排泄パターンの把握に努め、自立支援を用いた対応で介助・見守りができた。	3

		<p>食事 入居者一人一人に合った食 事の提供が行えるように、 支援する</p>	<p>入居者一人ひとりの食事形態や、 嚥下・ポジショニング等を多職種 で確認し情報を共有できた。また、 入居者様へ声掛けを行い、要望等 を傾聴し改善策を提案。一部介助 が必要であった入居者様がご自身 で食事が出来るまでに至った。</p>	3
		<p>③ 日頃より報告・連絡・相談に て職員間でのコミュニケー ションを密にし、多職種連 携を図る。また、記録を適切 で正確に行う</p>	<p>記録漏れや口頭での申し送りの漏 れなどがあったが、職員間での声 掛けを増やし、多職種連携強化に 努めている。</p>	2
		<p>④ 行事や日々のレクリエーシ ョンの企画内容を工夫し、 季節感があり、家族も一緒 に楽しめるものを提供する</p>	<p>日々のレクにはまだ工夫が足り ず、今後改善に努める。ご家族様 参加については、コロナ禍の為実 施できなかった。</p>	2
		<p>⑤ 内部・外部研修等へ積極的 に参加し、より専門的な知 識を身につけ、実践へ活か す</p>	<p>外部研修についてはコロナ禍の 為、実施できなかった。内部研修 については資料を参考に実施し、 レポートを提出する形をとった。</p>	3
2	看護	<p>① かかりつけ医や訪問診療医 との連携を密に行い、入居 者の健康維持に努める</p>	<p>日々の入居者様の体調情報など、 施設担当医師に報告・相談・指示 受け等、密に行い入居者様の健康 維持に努めた。</p>	3
		<p>② 多職種との連携にて、入居 者・家族の意向に添った医 療の提供に努める</p>	<p>入居者や家族様へ職員から声掛け を行い、訴え等を傾聴する事で、 職員間情報共有ができ、定期的な 健康チェックを行う事で、以上の 早期発見に努めることができた。</p>	4
3	機能訓練	<p>① 入居者の心身状況に応じ て、日常生活を営むために 必要な機能を改善、または 減退を防止し、快適に生活 できるように支援する</p>	<p>座位、起立、立位維持、歩行、筋力 低下防止、関節可動域、食事訓練 など 昼食前に口腔体操、体操を 行い体力維持に努めた。 集団体操はコロナ禍で難しい状況 であったが、個別に行った。</p>	3

		②	入居者・家族に機能訓練の実施に対しての満足度を把握し、計画に反映する。また、計画や実施状況は分かりやすく説明するように心がける	入居者で意思表示されない方がおり、思う様に評価できなかった。家族にはコロナの影響もあり、多職種との連携で郵送にて同意を得た。	2
4	生活相談	①	入居者・家族との定期的な面談の機会を作るなどして、相談し易い環境づくりに努める	入居者や家族へ面会等の声掛けを行い、積極的に窓越し面会や電話をしてもらい様支援した。	3
		②	入居者の福祉・医療ニーズの充足のため、他機関との連携を図る	入居者の状態把握、状態観察を毎日行い、訴えがあった時にはすぐに対応、解決できた。	3
		③	施設運用効率の向上を目指し、計画的な入退所の支援を実施するように努める	入居申し込みを常時受け付け、退所者が出る場合は空きが出ないように入退所支援を行った。	3
5	介護支援専門員	①	担当者会議を円滑に開催する為の仕組みを確立する	担当者会議の開催時には、まとめた項目について意見を再検討する事で会議がスムーズに進行できた。	3
		②	重度化防止・自立支援の視点を踏まえたプランニングをする	入所前に身体機能の低下があっても出来る目標を設定し、ケアを行う事で徐々にADLの向上がみられるケースがあった。	3
		③	入居者のQOL向上を目指し、多職種と連携して取り組む	本人が「気持ちよく生活する」を支えるプラン作成を多職種と取り組むことで、利用者が落ち着いて生活できている。	3
6	栄養	① 食事に 個々に 応じた 提供	多職種との連携を図り、病態や形態、嗜好を踏まえ、ここに合った食事を提供する	形態の変更、エネルギー調整など、食事内容の変更を行っている。	4
			給食会議において、食事内容変更の検討・相談を行う	上記同様	4

② 質の向上	残食量チェックや検食実施、聞き取りによる献立の見直し	検食時の感想を参考に、調味料の調整、汁物や小鉢の具量を調整した。	3
	年 2 回の嗜好調査の実施と献立への反映	コロナ禍で嗜好調査が 1 回となったが聞き取りした要望等は他職種と相談し、変更を行った。	2
	季節感のあるイベント食の実施	正月、七夕、敬老の日などの他、洋食メニューや季節の味覚といったイベント食の提供を行った。	4
	内外部のセミナー等への参加にて、栄養士としての専門性の向上に努める	企業からの DM やオンラインにて参加、視聴を行った。	3
③ 食事の提供 安心安全な	衛生管理の実施と記録	毎日の記録のチェックを行い、栄養士が毎月の記録を確認している。	4
	毎月一回の検便の実施（調理員）	毎月全員実施、提出されている。	4
	委託業者の調理や盛り付け、衛生教育に関する内部指導の依頼	月に 1 度委託事業部より送られてくる議題や資料に沿って教育が行われており、議事録も作成されている。	4
④ 入居者の栄養状態の維持、改善	毎月の体重測定の記録を確認し、適正体重以下の入居者に対して原因を追究し、多職種連携し改善に努める	食事摂取状況・摂取量を確認し、身体状況などに応じて形態の変更やお試しなどを相談・検討し行った。声掛けなどによる促しや介助なども行った。	4
	定期受診時の結果に応じて、低栄養状態等の確認を行い、主治医・看護師への相談にて対応を検討する	毎月の体重と合わせて、血液検査結果によって食事の摂取状況・摂取量・間食などの確認を行い、相談・検討の上エネルギーの調整等を行った。	3

7	事務	①	窓口や電話の対応にて相手に不快な思いをさせないように努めて対応する	忙しい時ほど笑顔・笑顔を心掛け、対応に努めた。他職種との連携を密にし、対応したい。	3
		②	施設の入り口であるロビーや事務所、トイレ等の清掃を徹底し、環境整備に努める	他職種と連携し業務の合間に消毒や清掃等実施できた。ロビーや事務所の消毒・整備は小まめに行った。	3
		③	個人情報の取り扱いには細心の注意をもって取り扱う	常に細心の注意をもって取り扱いをした。	3

3) 会議・委員会

No	項目	No	具体的な内容	評価の根拠	評価
1	安全対策委員会 (月1回開催)	①	入居者・職員の安全対策全般に関する事項の協議	毎月の事故報告・ヒヤリハットを集計し、その報告書をもとに原因追究を行い、再発防止に全職員で取り組んでいる。	3
		②	安全対策に関する教育の企画と実施	コロナ禍で会合等禁止の為、安全対策に関する資料を配布し、レポートを提出する形で行った。	2
2	身体拘束廃止委員会 (月1回開催)	①	入居者の身体拘束廃止全般に関する事項の協議	身体拘束をしない環境を継続する為、身体拘束に関する資料を職員へ配布し、レポートを提出する形で行った。	3
		②	入居者の行動制限廃止全般に関する事項の協議	入居者様へ対応の仕方や不穏にならないような環境づくりを職員にて共有し、全職員で注意し対応を行った。	3
3	感染対策委員会 (月1回開催)	①	入居者・職員の感染対策全般に関する事項の協議	感染マニュアルや手洗い後の洗浄効果を可視化する事で意識付けできた。	3
		②	感染対策に関する教育の企画と実施	感染対策に関する資料を配布し、レポートを提出する形で行った。	3

4	褥瘡対策委員会 (月1回開催)	①	入居者の褥瘡予防全般に関する事項の協議	看護師を中心に、全職員にてケア方法の情報共有・早期発見が出来ている。	3
		②	その他、褥瘡予防に関する事項の協議	褥瘡対策に関する資料を配布し、レポートを提出する形で行った。	3
5	ケース担当者会議 (必要時に開催)	①	入居者様・ご家族の意向等を踏まえ、介護支援専門員が企画立案し、多職種による検討を行う	家族とは電話や文書にて対応を行い職種と情報共有を行っている。クレーム等なく、多職種と連携を取りケース対応できた。	3
6	入所判定会議 (申込毎に適宜開催)	①	入居者の紹介があった場合、速やかに入所の諸条件や身体状況等に関して、関係者による情報の共有化を図り、入所判定結果を速やかに紹介元に連絡	多職種代表を集め入居者判定会議を実施。入所可能か否か、また優先順位について検討出来た身体状況によっては受入れが難しい場合もあった。	3
7	苦情処理委員会 (随時開催)	①	苦情に関する調査や解決策の検討を行う	解決策を入居者やご家族へ伝えることでトラブルになることなく解決できた。	3
		②	苦情とならないものであっても、意見等が寄せられた場合には適宜検討を行う	取り入れられる意見等は参考にし、反映できるよう取り組んだ。	3
8	給食委員会 (年2回以上の開催)	①	年2回嗜好調査にて、入居者様のニーズを把握し改善に努める	コロナ禍で嗜好調査が1回となったが聞き取りした要望等は他職種と相談し、変更を行った。	2
		②	個別での対応等を、多職種にて意見交換し検討、実施する	全職員で対応を考え検討・修正・評価し、観察ポイントの見直しが出来た。	3

特別養護老人ホーム 前島

利用者 定員 29名

年間稼働率 92.2% (目標稼働率 95%)

平均介護度 3.6

1. サービス利用実績

(1) 月別利用実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用人数	29	30	30	30	30	29	29	30	30	29	30	31
入院者のべ日数	57	49	53	46	14	21	64	61	56	81	65	90
のべ利用日数	813	850	812	848	875	849	835	797	826	785	699	775
稼働率 (%)	94.3	94.5	93.3	94.3	97.3	97.6	92.9	91.6	91.9	87.3	86.1	86.2
入所	0	1	1	1	1	0	0	1	1	1	3	3
退所	0	1	1	1	1	0	0	1	2	2	2	4

(2) 利用者介護度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
合計人数	28	30	29	30	30	29	29	29	29	27	29	29
要支援1												
要支援2												
要介護1												
要介護2	1	1	1	1								
要介護3	8	7	8	14	8	9	9	10	10	9	11	12
要介護4	15	16	16	10	17	16	16	15	15	15	14	13
要介護5	5	5	4	5	4	4	4	4	3	3	3	2
申請中												
平均介護度	3.83	3.9	3.83	3.8	3.83	3.83	3.83	3.8	3.8	3.76	3.73	3.68

2. 施設運営状況

- (1) 稼働率については、1月から3月にかけて体調不良による入院者が増加し、大幅な稼働率の低下がみられ、目標未達となった。
- (2) 新型コロナウイルス感染対策の為、内部研修をはじめ、外部研修等に参加することが出来なかったため、勉強会を実施しその中で自己評価までを行い、各職員の改善点や目標などを明確化する事で業務に活かすことが出来た。
- (3) 過去に参加した研修等の資料をファイリングし、いつでも職員が閲覧できるよう設置し知識向

上に努めた。

3. 利用者支援状況

- (1) 管理者を中心に多職種連携を図り、入居者個々のケアについて検討し、適切な介護や機能訓練等を実践できるよう努めた。
- (2) 新型コロナウイルス感染予防の観点から、ボランティアや地域団体等との交流が出来なかったが、各フロアごとに区切ってイベントやレクリエーション等を行い、利用者満足度の向上に努めた。
- (3) 感染症対策について全職員で勉強会等を行い、面会制限などの利用者やご家族の協力の下、感染症の発生をゼロにすることが出来た。

4. 行事・レクリエーション

	行事		行事
4月	春の花見会	10月	ハロウィンパーティー
5月	母の日	11月	運動会
6月	父の日&誕生会(4~6月)	12月	クリスマス&誕生会(10~12月)
7月	七夕会	1月	新春お茶会
8月	夏祭り	2月	おやつ会(バレンタイン)
9月	敬老会&誕生会(7~9月)	3月	誕生会(1~3月)

5. 職員研修

実施月	研修内容
4月	寝たきり高齢者への理解・廃用症候群について
5月	カテーテル取扱
6月	非常災害について訓練
7月	食中毒について
8月	認知症利用者の理由を探る認知症ケア
9月	腰痛予防
10月	感染症予防(インフルエンザ等)
11月	権利擁護・虐待・身体拘束について
12月	消防訓練(夜間想定)
1月	急変や事故対応について
2月	褥瘡対策について
3月	口腔ケア・嚥下について

実践報告

1) 重点目標

実践報告（4できた 3まあできた 2あまりできなかった 1できなかった）

No	項目	No	具体的な内容	評価の根拠	評価
1	適正な運営	①	施設設備、人員配置などの基準の確保	人員の入れ替わりがあったが、人員基準は満たしている。	3
		②	職業倫理や法令遵守	勉強会を実施し、全職員に周知・意識付けできた。	3
		③	連携体制の確保	多職種で連携し、業務課題を把握し解決に向け取り組んだ。	3
		④	秘密保持及び個人情報の適切な取り扱い	勉強会にて全職員へ周知できた。	3
		⑤	緊急時・災害時対応	適正な避難ルートの確保、火災、水害、台風時など夜間想定し行った。	3
		⑥	自己評価・点検の実施による改善	勉強会後に自己評価を行い、改善点を明確にする事で、個々の目標を立てることに繋がった。	4
2	サービスの質の向上	設備・物品について	共有スペースの環境整備を行い、入居者様やご家族様がゆったりくつろげるよう、掲示や装飾をする。	毎月イベント等で装飾等行ったが、入居者が自ら共有スペースに寛ぎに来ることが少なく、改善が必要。	2
			車いすやテーブルなど、定期点検を行う等して、清潔で安全に使用できるよう管理を行う	汚れたら清掃するという状況の為、リスト化し設備や備品を明確にする。	3
		ケア内容について	認知症ケアの質を向上できるように、勉強会や意見交換の場を作る	勉強会を実施し、意識改善できた。今後も定期的に勉強会等を行っていく。	3
			事業所間の交流の場を作り、意見交換を行う	コロナ禍の為、オンラインにて意見交換等を行った。	4
		入居者様一人ひとりのADLに合った介助方法を検討し、勉強会を実施する	業務ミーティングにてケアの改善点、変更点を検討した。	3	

		レクリエーションについて	入居者様の意見を取り入れる等して、楽しく喜んでいただける企画を計画・実施	カラオケの要望が多いが、コロナ対策の為、フロア間の移動制限を実施。レク活動も制限される形となった。	2		
			職員による催しだけでなく、ボランティアなどの活用にて、より楽しめる催しものができるようにする。	コロナ禍の為、外部との接触を控えた。	1		
		職員の能力向上について	毎月の研修に加え、いつでも資料が確認できる環境を整え、普段から意見交換が行えるように努める	毎月研修を実施して、資料等をいつでも確認できる様設置した。また研修の際にミーティングも同時に開催した。	4		
			気軽に意見交換や情報共有ができるように、できる限り多くの職員が参加できるミーティングを実施する	勉強会の際に課題等を確認し、実施した。	3		
			外部研修に積極的に参加する	コロナ禍の為、自粛	1		
			職員面談にて、目標や課題の確認を行い、改善・成長に繋げる	勉強会を通して目標設定から自己評価までの流れが出来た。	3		
			①	近隣の学童や老人センターとの交流の機会を設ける	コロナ禍の為、自粛	1	
		3	地域との連携	②	気軽に近隣への外出が行えるように支援する	コロナ禍の為、自粛	1
				③	ボランティアを積極的に活用する	コロナ禍の為、自粛	1

4	利用者満足度の向上	①	季節感を楽しめ、ご家族も参加できる企画を計画する	コロナ禍の為、各フロアごとに実施した。	2
		②	日常とは異なる、特別な時間が過ごせるような支援をする	机上作業の不足、集団でのレクリエーションが出来なかった。	2

2) 個別目標

No	項目	No	具体的な内容	評価の根拠	評価
1	介護	①	柔軟な職員配置を実施し、効率化を図ることで一斉に介護支援方法を見直し、個別ケアを推進する。	タイムスケジュールがあるが、利用者個々のペースを尊重し柔軟な対応ができた。	3
		②	職員のスキル・連携体制を高めるため、年間勉強会の参加率を上げ、職員個別目標を達成する	勉強会に参加できなかった職員へは資料配布し、目標設定から評価を行う事で目標達成出来た。	3
		③	地域の祭りや季節感を感じられるスポットへの外出支援を計画し、利用者様の気分転換や満足度の向上を図る。	コロナ禍の為、自粛	1
2	看護	①	入居者様が安心して生活できるように、個々のニーズに合った適切な医療・看護を提供する	入居者様個々のニーズを聞いて処置かつケアを行った。	3
		②	医師への相談をこまめに行い、施設にて多職種との連携を図り情報を提供する。	入居者様の不調時に医師への診察依頼・情報提供を行った。	3
3	機能訓練	①	入居者様の思いに寄り添いながら、訓練への参加を支援する	コミュニケーションを取りながら入居者様が楽しく訓練できる様努めた。	4
		②	ボランティア等を積極的に受け入れ、外への散歩を行い、環境の変化・季節の変化を感じながら、訓練の充実を図る	コロナ禍の為、外出を控えた。	1

		③	楽しく笑顔ある機能訓練を行うため、従来のトレーニング以外のメニューの充実化を図る	ボールやパズルなどを取り入れ充実した訓練を行った。	4
4	生活相談	①	入退所に関して、入居者様やそのご家族が不安なく安心できるような案内ができるよう配慮し対応する	入所前オリエンテーションにて当所での生活のイメージを持って頂けるよう努めた。退所にあたっては協力医療機関と連携し、次のお住いの確保に努めた。	3
		②	入居者様やそのご家族等とのかかわりを密にし、信頼関係を築いていく	コロナ禍の為、ガラス越しでの面会やお電話での連絡に努めた。	3
		③	他職種と連携を図り、入居者の状況把握に努め、サービス向上に繋げる	申し送りや申し送りノートを活用し入所者様の状況把握や他職種との情報共有に努めた。	3
5	介護支援専門員	①	施設サービスだけでなく、行政・近隣地域等のボランティア等、社会資源を有効に活用し、プランに取り込むことで、施設生活でも意欲向上・満足度向上を目指す	コロナ禍の為、社会資源の活用が利用できなくなり、入居者への刺激が減少し認知機能や意欲低下が見られる利用者がいた。	2
		②	協力医療機関（歯科）との連携を図り、高齢者の口腔ケアや摂食・嚥下機能を考え、機能や清潔さの維持・向上にて、QOL・ADLの維持・増進を目指す	コロナ禍の為、歯科との連携も制限され、QOL・ADLの維持や増進が出来なかった。	1
		③	外部・内部研修に積極的に参加し、より多くの知識を習得し、入居者・家族へ必要な情報を適切に提供できるようにする	コロナ禍で研修等の参加が十分に出来なかった。	2
		④	入居者・家族とのコミュニケーションを密にし、傾聴に努め、満足度の向上を目指す。また、適正な記録を行い、他職種との情報共有に努める	入居者や家族からの苦情、要望に対し他職種と共有し解決できた。	4

6	栄養	①	入居者の状態の変化に応じた食事の提供を行う	日々、食事の状況観察を行い、入居者様の状態に合わせた食事の提供を行った。	3
		②	定期的な嗜好調査や日々のコミュニケーションにて利用者や家族等の意見を傾聴し、できる限り希望に添った食事を提供できるように、給食委託会社と連携し、多職種との検討にて対応する	年2回の嗜好調査や日々の会話の中から要望を伺い、委託会社へ要望依頼を行った。	3
		③	食堂の環境整備に工夫・配慮出来るように提案・実施する	入居者様が楽しくおいしく食事出来る環境づくりを心掛けた。	3
		④	季節感を感じてもらえるように、イベントや個人の誕生日等にて、コミュニケーションツールを活用するなどして工夫を行う	季節感を感じてもらおう工夫をしたが、コミュニケーションツールの導入には至らなかった。	2
		⑤	災害発生時の備蓄食の整備をする	給食委託業者からの備蓄食を保管。	3
7	事務	① 受付業務	生活相談員・介護支援専門員との連携を図り、利用者・家族への丁寧な説明や正確な情報提供に努める	コロナ禍の為、ご家族の来所、面会が減少した。電話連絡の際丁寧な説明に努めた。	3
		② 労働環境整備	職員の健康管理：年一回の健康診断の実施（夜勤業務がある場合は年2回）	健康診断を実施した。	4
			有給休暇の適正な取得	2カ月以上取得していない職員へ休暇取得の提案を行った。	3
			防災訓練の実施（年2回以上）	令和2年度は3回実施。	4
		定期的な設備点検（防災・エレベーター等）	業者にて定期点検を実施。	4	

	③ 備品管理	修理や購入の依頼検討等、メンテナンスを行い、備品の管理を行う	故障や不具合が生じた際は速やかに業者へ連絡し対応した。	4
		メンテナンス等は定期的で継続して行えるようチェックリスト等を活用して実施する	備品のチェックリストを作成し活用できた。	4
	④ 人事業務	適正な人員配置を維持(求人・採用等)	人員状況を把握し、長期的な視野での管理を行い採用活動に反映させた。	3
		働きやすい環境の整備(職員の育成、面談等)	介護経験が浅い職員へマニュアル等作成し経験が長い職員と業務を行い、育成していける環境作りに努めた。	3

3) 会議・委員会

No	項目	No	具体的な内容	評価の根拠	評価
1	安全対策委員会 (月1回開催)	①	入居者・職員の安全対策全般に関する事項の協議	毎月会議を行い、事故分析、対策、継続の協議を行った。	3
		②	安全対策に関する教育の企画と実施	年間研修計画にて安全対策にかかわる研修を実施。	3
2	身体拘束廃止委員会 (月1回開催)	①	入居者の身体拘束廃止全般に関する事項の協議	会議にて分析、対策が出来ていた。	4
		②	入居者の行動制限廃止全般に関する事項の協議	R2年6月からは行動制限をしていた入居者の制限を無くすことができた。	4
3	感染対策委員会 (月1回開催)	①	入居者・職員の感染対策全般に関する事項の協議	毎月の会議において感染対策や協議を行った。	4
		②	感染対策に関する教育の企画と実施	勉強会等を行い、意識改善を図ることができた。	4

4	褥瘡対策委員会 (月1回開催)	①	入居者の褥瘡予防全般に関する事項の協議	会議の中で褥瘡に限らず、皮膚トラブルについて協議を行った。	3
		②	その他、褥瘡予防に関する事項の協議	勉強会などの議題に挙げ実施した。	4
5	ケース担当者会議 (必要時に開催)	①	入居者様・ご家族の意向等を踏まえ、介護支援専門員が企画立案し、多職種による検討を行う	入居者、家族の意向を尊重し、他職種へ周知検討し実施できている。	4
6	入所判定会議 (申込毎に適宜開催)	①	入居者の申し込みがあった場合、速やかに入所の諸条件や身体状況等に関して、関係者による情報の共有化を図り、入所判定結果を速やかに紹介元に連絡	満床時には開催されない月があったが、開催時に多職種で連携しスムーズに入所ができるよう対応出来た。	3
7	苦情処理委員会 (随時開催)	①	苦情に関する調査や解決策の検討を行う	開催は2件。概ね1週間のうちに解決に至っている。	3
		②	苦情とまらないものであっても、意見等が寄せられた場合には適宜検討を行う	件数が少なく、意見や要望を傾聴する機会や話しやすい雰囲気づくりに努める。	2
8	給食委員会 (年2回以上の開催)	①	年2回嗜好調査を行い、入居者様の好みや嚥下状況に合わせた食事の提供が行えるように、献立の見直しや調理法の改善を検討・実施する	嗜好調査と食介時の会話等から得た好みや要望を給食委託業者へ報告・相談を行った。	3
		②	栄養管理・衛生管理	体重観察や食事摂取量を確認し、入居者様の要望等取り入れながら、多職種にて連携し形態変更などを行った。	3

有料老人ホーム 星の館

利用者 定員 97名

年間稼働率 76.2% (目標稼働率 100%)

平均介護度 4.11

1. サービス利用実績

(1) 月別利用実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用人数	93	93	91	97	93	87	83	92	96	97	99	97
入院者のべ日数	418	541	405	321	252	449	458	509	608	525	583	413
のべ利用日数	2276	2187	2123	2449	2366	2104	2054	2138	2316	2341	2161	2460
稼働率 (%)	78.2	72.7	73	81.4	78.7	72.3	68.3	73.5	77	77.9	79.6	81.8
入所	3	5	11	10	5	7	5	11	10	10	13	14
退所	5	13	4	9	13	9	2	6	9	11	16	8

(2) 利用者介護度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
合計人数	93	93	91	97	93	87	83	92	96	97	99	97
要支援1												
要支援2												
要介護1	1	1	1	1	1	1	1	1				
要介護2	5	4	4	4	4	3	3	3	5	5	5	5
要介護3	11	12	13	13	13	12	10	14	14	15	14	15
要介護4	39	39	39	42	43	40	37	42	43	44	46	44
要介護5	37	37	34	37	32	31	32	32	34	33	34	33
申請中												
平均介護度	4.13	4.15	4.1	4.13	4.08	4.11	4.15	4.09	4.1	4.08	4.1	4.08

2. 施設運営状況

- (1) 稼働率については、一年間を通して7月と3月以外は70%台となった。また10月については68.3%と大幅な低下となった。要因としては利用者の長期入院や検査入院の為、稼働率が低下している。
- (2) 新型コロナウイルス感染対策の為、外部研修等に参加することが出来なかったため、オンラインでの研修や勉強会等を行い、職員の知識及び質の向上を図った。また、職員全員参加の勉強会の開催が行えなかったため、申し送り時やミーティング等日々の業務の中で、意見交換等行えるよう工夫した。

- (3) 主任や相談員を中心に、他職種やデイケアも含め情報共有を行い、入所者の健康状態等を把握できる様努めた。

3. 利用者支援状況

- (1) デイケア利用者については、派遣先のデイケアとの間で連絡帳を活用して、情報の共有化を図っている。
- (2) 夜間寝ないで徘徊する利用者については、その利用者の心情に配慮し、介護職員が絶えず声掛けをする等の会話を重ね支援している。
- (3) 感染症対策については、申し送り時の時間帯を利用して個々の事例毎の対処法を説明し全職員にて対応できるよう努めている。
- (4) 新型コロナウイルス感染対策のため、面会制限をしたことで家族の不安を払拭する為、利用者の健康状態を電話連絡する等の情報発信を行っている。
- (5) レクリエーションについては、新型コロナウイルス感染対策の為、開催には至っていない。

4. 行事・レクリエーション

	行事		行事
4月	誕生会	10月	誕生会
5月	誕生会	11月	誕生会
6月	誕生会	12月	誕生会
7月	誕生会	1月	誕生会
8月	誕生会	2月	誕生会
9月	誕生会	3月	誕生会

5. 職員研修

- (1) 職員の研修については、その都度事例を捉えて、質疑応答又は、記述式のレポートを求める等での向上を図っている。
- (2) 申し送り時に懸案事項等について、発表者をその都度指名して発表させ、事案の重要性の認識と発言力の向上を図っている。

	研修内容
4月	転倒事故防止について
5月	感染症対策について
6月	認知症について
7月	熱中症対策について
8月	防火訓練（蘇生・AED）
9月	安全管理
10月	高齢者虐待防止研修・抑制・拘束

11月	各種マニュアルについての勉強会
12月	各種事故発生時における初動対応について
1月	苦情解決セミナー
2月	自衛消防について（災害時の訓練）
3月	危機管理について

実績報告

1) 重点目標

実践報告（4できた 3まあできた 2あまりできなかった 1できなかった）

No	項目	No	具体的な内容	評価の根拠	評価
1	適正な運営	①	施設設備、人員配置などの基準の確保	人員が不足した期間があり、退職意向を把握した段階で採用担当と情報共有し、現場に負担が無いよう迅速な採用活動に努める。	2
		②	職業倫理や法令遵守	ルールに従い安全・安心な運営を行っている。	3
		③	連携体制の確保	主任・相談員を中心に情報共有に努めている。	2
		④	秘密保持及び個人情報の適切な取り扱い	全職員で適切な取り扱いが出来るよう努めている。	4
		⑤	緊急時・災害時対応	2月、10月に防災訓練を実施した。	3
		⑥	自己評価・点検の実施による改善	職員への聞き取りのみでの実施になった為、面談等の中で実施し記録を行う。	1
2	サービスの質の向上	設備・物品について	共有スペースの環境整備を行い、入居者様やご家族様がゆったりくつろげるよう、掲示や装飾をする。	整理整頓等の環境整備は行ったが、装飾など寛げるスペース作りは出来なかった。	2
			車いすやテーブルなど、定期点検を行う等して、清潔で安全に使用できるよう管理を行う	デイサービスとの連携もあり、清潔・安全に使用できている。	3

		ケア内容について	認知症ケアの質を向上できるように、勉強会や意見交換の場を作る	コロナ禍で集まることが出来ず、申し送り等日々の業務の中で行った。	2	
			事業所間の交流の場を作り、意見交換を行う	デイサービスとの意見交換では連絡ノートや電話等で行った。	3	
			入居者様一人ひとりのADLに合った介助方法を検討し、勉強会を実施する	日誌への記入だけでは情報共有に不足していたため、今後は申し送りの際にも行っていく。	1	
		職員の能力向上について	毎月の研修に加え、いつでも資料が確認できる環境を整え、普段から意見交換が行えるように努める	コロナ禍で研修や全職員での勉強会等の開催が難しく、マニュアル等を確認しながら職員の意識統一を図った。	2	
			気軽に意見交換や情報共有ができるように、できる限り多くの職員が参加できるミーティングを実施する。	全員が参加できない場合でも資料等に目を通してもらい、情報共有をした。	2	
			外部研修に積極的に参加する	コロナ禍の為、自粛	1	
			職員面談にて、目標や課題の確認を行い、改善・成長に繋げる	職員一人ひとりの目標を明確にし、資格取得等に取り組んでいる。	3	
		3	地域との連携	① 近隣の学童や老人センターとの交流の機会を設ける	コロナ禍の為、自粛	1
				② 入所者が気軽に外出(一時帰宅)できるよう家族との連携を図る	コロナ禍の為、自粛	1

		③	ボランティアを積極的に活用する	コロナ禍の為、自粛	1
4	利用者満足度の向上	①	ご家族様も参加できる企画を計画する	コロナ禍の為、自粛	1
		②	通所サービスとの連携を密にして支援する	コロナ禍の為、自粛	1

2) 個別目標

1) 実践報告（4できた 3まあできた 2あまりできなかった 1できなかった）

No	項目	具体的な内容	評価の根拠	評価
1	介護	安全、安心な介護で入所者の満足度の向上を図る	同じ様な事故が起きた事例があり、勉強会等を実施し、再発防止の徹底を図った。	2
2	看護	医師との連携を図り入所者の健康増進を図る	しっかり連携が取れている。	4
3	生活相談員	入所者と家族、他事業所との連携がスムーズに行えるよう支援する	入所者やご家族ともコミュニケーションが取れており、支援できている。	3
4	事務	正確、迅速、丁寧な事務処理を努める	連絡事項など口頭のみで済まらず、記録しミス防止に努めている。	3

3) 会議・委員会

No	項目	No	具体的な内容	評価の根拠	評価
1	安全対策委員会 (月1回開催)	①	入居者・職員の安全対策全般に関する事項の協議	参加できない職員への周知が不十分であった。	2
		②	安全対策に関する教育の企画と実施	原因究明や対策が不十分であった。	2
2	身体拘束廃止委員会 (月1回開催)	①	入居者の身体拘束廃止全般に関する事項の協議	勉強会や資料等の配布を行い、身体拘束についての理解を深めることができた。	3
		②	入居者の行動制限廃止全般に関する事項の協議	危険な入所者に対して、行動制限を行った事例があった。	2

3	感染対策委員会 (月1回開催)	①	入居者・職員の感染対策全般に関する事項の協議	消毒など不十分な職員がいたが、その都度指導し対応した。	2
		②	感染対策に関する教育の企画と実施	感染対策に関するマニュアルや資料等を活用して周知を行ったが不十分であった。	2
4	褥瘡対策委員会 (月1回開催)	①	入居者の褥瘡予防全般に関する事項の協議	完治に至らないケースがあったが、多職種にて連携し予防に努める。	2
		②	その他、褥瘡予防に関する事項の協議	処置、体位交換に関して適切に対応できた。	4
5	苦情処理委員会 (随時開催)	①	苦情に関する調査や解決策の検討を行う	いつも同じ職員が意見や要望の聞き取り、対応していた為、全職員が聞き取りし他職種で改善検討できる様努める。	2
		②	苦情とならないものであっても、意見等が寄せられた場合には適宜検討を行う	全職員が利用者の意見等に迅速に対応できる様、日頃より意識して業務を行うよう努める。	1
8	運営委員会			相談員が中心となり、意見交換等積極的に行った。	3

那覇市地域包括支援センター新都心

新都心地区

総人口 15,157人 (内) 65歳以上 1,956人

高齢化率 12.9%

1. 総評

地域に住まわれる65歳以上の高齢者の把握や支援を行い、介護予防・認知症予防周知活動を行いました。比較的新都心地域は、若い世代や元気な方が多く65歳以上の高齢者でも働いている方が多い。高齢者の把握・支援を行う際もマンションのオートロックが多く、訪問を受け入れて頂けない事が多い。その為、若い世代に介護予防と認知症について教育を行う方向で勧めた。

2. 重点実施事項の取組と成果

(1) 介護予防把握事業

① 新型コロナウイルス感染拡大ため、個別訪問活動が出来ない時期があり、昨年より実施回数が減少している。またチェックリスト実施し対象であれば総合事業への促しや、自宅近くへのふれデイ、教室への誘導を行った。

② 総合事業の団体周知を企業や集会に参加するなどして、周知を行った。

(2) 介護予防普及啓発事業

がんじゅう教室、認知症特化型教室、介護予防講話を実施し、参加者は同じ顔ぶれが多く、新規の参加者の獲得や周知が必要と感じた。利用者同士が教室を通して知り合いになり、プライベートでのグループができ、それぞれ活動する事が出来た。

(3) 地域介護予防活動支援事業

昨年度からのサークルの続支援を行っている。

(4) 見守りネットワーク事業

支援台帳に追加するが、特に支援が頻回訪問による支援の必要性はなく半年や1年に1回状況を確認している。支援台帳の整理を行い対象者の確認を行う必要がある。

(5) 地域ケア会議（包括開催）

①日常生活圏域ケア会議（協議体）が新型コロナウイルスの感染予防のため、ノルマの回数が実施できなかった。会議内容としては地域の若い世代や企業等と地域のために若い世代で出来る事を行う方向性で進めている。委託期間の残りの2年で行えるように計画を立てている。

②個別事例検討会議が少ないが、委託先が少なく包括内のプランナーとの個別事例検討会議を行っているが、プランナーとの検討会議は実績とならない為、回数が少ない。

(6) 包括的支援事業

ケアマネジャーの後方支援が、包括新都心単独では行えていない。委託先居宅の協力も必要なため、今後は実施できるように環境を整える。

(7) 認知症総合支援事業

認知症カフェについては新型コロナウイルス感染予防のため、中止している。

(8) 生活支援体制整備事業

まちづくり協議体等の集まりに参加し、自治会や企業等とネットワーク構築に努めている。

(9) その他・センター独自の活動

包括新都心前のかりゆし公園にて夕方5時半よりラジオ体操やがんじゅう体操を実施。

実績報告

1) 重点目標

実践報告（4できた 3まあできた 2あまりできなかった 1できなかった）

No	項目	No	具体的な内容	評価の根拠	評価
1	適正な運営	①	施設設備、人員配置などの基準の確保	施設整備、人員配置は適正。	4

		②	職業倫理や法令遵守	虐待対応時の心得等は、職業倫理に基づいている。法令遵守を行い適正な業務を行っている。	4
		③	連携体制の確保	週1回の全体ミーティング及び必要時に応じて会議を行い、業務の連絡・相談体制を整えている。	4
		④	秘密保持及び個人情報の適切な取り扱い	体操教室等の個人情報を持ち出し等は帳票にて適切に返却された管理を行っている。また、管理者に声掛けを行い毎回確認している。	4
		⑤	緊急時・災害時対応	緊急対応や災害対応が必要そうな地域住民の把握等に努めている。今年度は、特に緊急対応等はなかった。	2
		⑥	自己評価・点検の実施による改善	前年度の自己評価を元に今年度の計画を立て改善が行えた。来年度の計画を策定し、更に改善を策定する。	3
2	サービスの質の向上	①	他地区包括支援センターとの交流の場を作り、意見交換を行う	本庁地区、那覇全体の包括支援センターと月1回程度の連絡会・管理者会を行い、意見交換及び業務の問題点の解決に努めている。	4
		②	外部研修への積極的な参加	コロナ禍にてオンライン研修の参加は行えた。今年度は中止となった研修が多い。	3
		③	気軽に意見交換や情報共有ができるように、できる限り多くの職員が参加できるミーティングを実施する	週1回の全体ミーティングは全職員参加なため、週1回程度の意見交換や情報提供を行えるようにしている。ミーティング以外にも随時、意見を言えるような環境に作りに努めている。	3

3	地域との連携	①	地域住民、自治会、まちづくり協議会、近隣学童との交流の機会を設ける	自治会、まちづくり協議会等の定期の会議に参加。近隣学童等はコロナ禍のため、交流なし。	3
		②	地域の困りごとから、サービスの創設へつなげる	コロナ禍特有の悩みを地域から抽出し、お散歩マップを作成。	4
		③	ボランティア団体の育成	コロナ禍により積極的な交流は避けていた為、育成できていない。	1
		④	地域住民に対し自助、共助の定着化周知活動、意識付け	お散歩マップを包括からは少しのお手伝いで、地域の力で作成できた地域があった。	4

2)個別目標

実践報告（4できた 3まあできた 2あまりできなかった 1できなかった）

No	項目	具体的な内容	評価の根拠	評価
1	主任ケアマネ	自立へ向けたケアマネジメントの定着化	ケアプランチェック等にて自立支援への促しを行えた。	3
2	社会福祉士	見守り体制の強化により、権利侵害や高齢者虐待の早期発見に努める	自治会等との連携体制を整え、早期に相談がしやすい関係性の構築を行えた。	4
3	保健師	地域の健康意識の向上、自主的な介護予防の周知	コロナ禍で介護予防教室の中断等があったが、チラシでの介護予防の周知を行えた。	3
4	ケアプランナー	適切なサービスの調整、インフォーマルサービスの活用	主任ケアマネに適宜相談し、偏ったサービスの調整を避ける事が出来ている。インフォーマルサービスの活用の努めることが出来た。	3
5	事務	環境づくり等の専門職の支援	包括の業務の把握が出来ておらず、他専門職に助けられている。	2

3)会議・委員会

No	項目	具体的な内容	評価の根拠	評価
1	三職種会議 (必要時に開催)	高齢者虐待、困難事例検討、 包括業務方針、地域ケア会議 方針決め等	必要時に開催し対応が行えた。会議以外に、常日頃相談できるようにし、会議の前段階で検討し会議で内容を詰める体制を整えている。	3
2	苦情処理委員会 (随時開催)	① 苦情に関する調査や解決策の検討を行う	苦情がなく、検討する場面がなかった。	1
		② 苦情とならないものであっても、意見等が寄せられた場合には適宜検討を行う	職員間では話し合うが、記録として残していない。	2